

水神碑にかいてあること

宮城郡の福岡村、根白石村、田中村、小岳村の四つの村で使っている大堰の用水路の水が

大畑沢を通る、古いくぐり穴の湧き上がりところの岩の質がすっかりしていなくて、所々から水がふきだしました。

毎年、多くのひとの力で修理をしたが、すぐ破れてしまい、人々は薄い氷をふんでいるような気持ちでした。

そこで、村長の石川さんが後の世までも残る、新しいくぐり穴をつくることを考え

用水を使う村々の役づきの人々といろいろ相談し、さらに藩主にも申し上げました。

工事の責任者の庄司忠蔵様とお役人の富田盛様が見にきてお調べになり、

新しいくぐり穴のうち、百間は米の収穫高で費用を納めるようにと、

命令が通知されました。嘉永二年の酉の年（一八四九年）の十月に工事にとりかかり、翌年の戌の年二月に、

できました。このくぐり穴の高さは五尺、幅三尺、長さは継入りから第一の狭間まで七十八間二尺、

第一の狭間から第二の狭間まで六十四間一尺、二の狭間から三の狭間まで五十間二尺六寸

三の狭間から吐き出しまで六十八間一尺五寸、一の狭間は二十九間三尺

二の狭間は二十九間三尺、三の狭間は三十間一尺五寸

合計の間数は、三百五十間四尺二寸となり、首尾よく水が流れ、用水が一つにまとまり、安心して

よろこびました。そこでこのことを碑にほりつけて長く後世に伝えるものです。

表の名前の、この村の組頭の宇兵衛は、
老体なので、せがれの伝九郎をあわせて世話人となります。

くぐり穴の掘り方の主は、南部吉助
石工 東海林三之丞

（長さ一尺は、今の長さで約30センチメートル、一間は約180センチメートルです。）

